

〈描図能力育成のための実践研究〉

附属小学校 坂口 亨
不破中学校 渡邊美智春

東長良中学校 浅井 孝彦
岐阜北高等学校 村上 宏俊

1. はじめに

「百聞は一地図に如かず」といってもよいほど、一枚の分布図・地図からは様々なことを読み取ることができる。その分布図・地図を作製することは、特に社会科の作品化として、とても魅力的な教材である。その分布図・地図を作製する能力、いわゆる描図能力を育成するためにはどうしたらよいか、平成16年度より3年間にわたって、試行錯誤しながら研究をすすめてきた。

2. 研究にあたって

(1) 描図能力段階表の作成について

描図能力段階表を作成するにあたって、手探り状態からはじめたのが実状であった。よりどころとなる資料や参考文献をまず探すことから始めた。その中で見つけた「地図でつける基本学力」(北俊夫著) や「地名と地図の地理教育」(田中耕三著)などをもとに、独自で発達段階ごとに、どういう順序で学習すれば描図の能力がついていくのか検討していった。もちろん、学習指導要領と照らし合わせ、小・中学校と高等学校をどのようにつないでいったらよいのかの議論も重ねた。

描図可能な単元名の洗い出しを小・中・高等学校別で行い、その単元の内容とつけたい描図能力を照らし合わせながら、できる限り発達段階に即した描図能力段階表を作成した。とりわけ、社会科の教科を学び始める小学校3年生から単元の洗い出しを始め、順に4年生、5年生まで行った。小学校6年生については、歴史的な学習がメインであるので除外した。その後、中学校1年生、2年生の地理的分野の単元の洗い出しを行った。中学校3年生については、公民的分野の学習が中心であるので、これも除外した。高等学校については、科目が多数にわたるので、担当者の実践可能な科目にしぼった。

また、準備するものや描図手順、配慮すべき留意事項も明記して、実際に授業で取り扱う際、専科以外の先生方にも活用していただけるようこの描図能力段階表に盛り込む形でまとめた。

(2) 実践について

実践担当者は、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭に分かれていたので、それぞれその校種で1ないし2単元とりあげ、実践を行った。

小学校においては、知っている身近な地域(市区町村レベル)を対象とする小学校低学年(1、2、3年生)と知らない身近な地域(都道府県レベル)を対象とする小学校高学年(4、5、6年生)からそれぞれ1実践ずつ取り上げた。

(小学校社会科第3学年)

- ・単元名「市の様子」
- ・内容=ガイドマップづくり

(小学校社会科第5学年)

- ・単元名「わたしたちの生活と工業生産」
- ・内容=工業のさかんな地域の分布図づくり

中学校においては、世界や日本の概要をつかんで基礎・基本的な地図づくりを行う中学校1年生から2実践、ある特定の地域に焦点をあて、工夫した分布図づくりを行う中学校2年生から1実践を取り上げた。

(中学校社会科地理的分野第1学年)

- ・単元名「世界のすがたとさまざまな地域」
- ・内容=世界の略地図づくり
- ・単元名「日本のすがたとさまざまな地域」
- ・内容=日本列島の地図づくり

(中学校社会科地理的分野第2学年)

- ・単元名「世界の国々の調査～多面的に調べよう～」
- ・内容=アメリカのイラストマップづくり

高等学校においては、地図を加工した分布図づくりの2実践を取り上げた。

(高等学校現代社会科第1学年)

- ・単元名「国際社会の課題」
- ・内容=人口増加を加味した世界地図づくり

(高等学校地理歴史科第3学年)

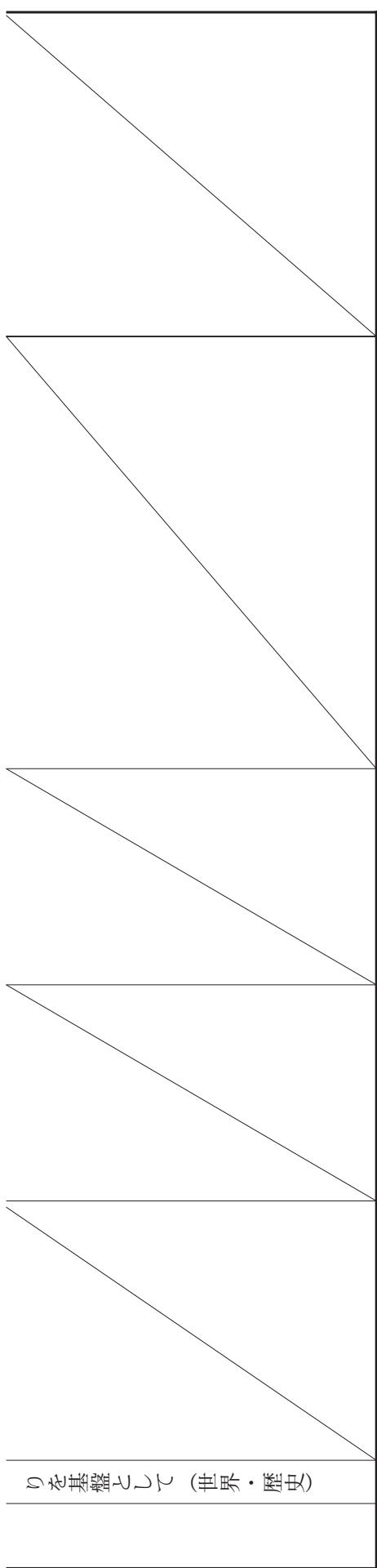
- ・単元名「明治維新と富国強兵」
- ・内容=葬祭形式や寺院数を入力した岐阜県市町村別分布図づくり

「描図（地図づくり）能力段階表」（小1～中3）

発達段階	つけたいたい描図能力	描図可能な単元名	準備するもの	描図手順	留意事項
小1 知つ ている 身近な 地域を対象として (市区町村)	①簡単な絵地図や模型を 描いたり制作したりで きる。 ②学校や近所の模型地図 (床地図) を描くこと ができる。	・わたしたちのまち みんなのまち	・学校のまわりの略 地図(学校を中心 とする)	1 探検で整理した絵地図をもとにわかりや すい地図を作るにはどうしたらよいかを 話し合う。 2 みんなで確認した記号を用いて絵地図に まとめる。	・東西南北を表す記号を書きき れる。 ・距離がわかるように目盛りの ついたものさしを書き込む (縮尺)。
小2	①学校を中心とした絵地 図が描くことができる。 ②市(区、町、村) 略地 図や簡単な分布図を描 くことができる。 ③絵地図から平面地図へ の移行ができる。	・市(区、町、村)マップをつ くろう	・市町村の地図 ・薄い紙(トレーシ ングペーパー) ・色鉛筆など	1 市の形を描く。 ・市の地図の上にうすい紙を重ねてだいた いの形をなぞる。 2 市の詳しい地図を見ながら、高いところ に色をぬる。 3 おもな川を描く。 4 鉄道や道路は、主なものだけを簡単に描 く。 5 分かったことを書き入れる。	・市の形を描くときに、慣れて いれば、地図を見ながら描か せてもらよい。 ・分かつたことは、どんな様 子なのかを書き入れたり使つ た写真や資料をはつたりして もよい。
小3	①県(都、道、府) の略 地図、簡単な地形図や分 布図を描くことができる。 ②平面地図を見ながら、 簡単な地図模型をつく ることができる。	・わたしたちの県	・県の地図 ・薄い紙(トレーシ ングペーパー)	1 県の形を描く。 ・県の地図の上に薄い紙を重ねて形をなぞ る。 2 あがつた白地図に調べたことをまと める。 ・地勢図や土地利用図から調べた県の土地 の様子をパンフレットなどからわかつた県の 特色を白地図にまとめる。	・白地図は何枚も作製しておき、 学習のまとめに利用する。
小4 知らない 身近な 地域を対象として	①各種の分布図の意味が ・わたしたちの生活	・日本地図(白地図)	・山地の地形図 (5万分の1) ・定規	1 地形図の計曲線を赤でなぞる。 2 直線ABと計曲線の交わりを見つける。 3 垂直に線をおろし、プロットする。 4 点を結び、断面図をつくる。	・あらかじめ教科書にある等高 線の見方の練習をしておくと よい。
小5	①各種の分布図の意味が ・わたしたちの生活	・日本地図(白地図)	1 稲の収穫量の上位10位までの都道府県に	・単に色を塗るだけでなく、地	

日本・世界	わかり、簡単な分布図を描くことができる。	と食料生産	・稲の収穫量 色を塗る。 2塗り終わった分布図により米作りの盛んな場所を確認する。	図の中に順位を書き込んではいる児童を認めるとよい。
		日本地図（白地図） ・水揚げ量の多い漁港（上位50位）	1 水揚げ高上位15位までの漁港を白地図に表す。 2 位置づけた分布図を用いて、水産業の盛んな場所を確認する。	・単に色を塗るだけでなく、地図の中に順位を書き込んではいる児童を認めるとよい。
小6	①各種の簡単な分布図を描くことができる。 ②略地図が必要に応じて描くことができる。	・わたしたちの生活 と工業生産	・日本地図（白地図） ・都道府県別製造品全出荷額 1 工業製品出荷額が10兆円以上の都道府県に色を塗る。 2 工業製品出荷額が5兆円以上10兆円未満の都道府県に色を塗る。 3 塗り終わった図を用いて、工業生産の盛んな場所を見つける。	・1と2は色を変えて塗る。
		・世界のすがた	・世界地図 ・トレーニングペーパー ・太いマジック	1 太いマジックで世界地図の簡略線をなぞる。 2 作業を通してできた略地図をながめ、さは、太いマジックで世界地図の海岸線等をなぞる。
中1	統計資料を活用しての分布図づくりを基盤として（日）	・日本のすがた	・日本地図 ・トレーニングペーパー ・太いマジック	1 太いマジックで日本地図の海岸線等をなぞる。 2 作業を通してできた略地図をながめ、さらによくかなどを工夫しながら、自分なりの略地図の描き方を工夫する。
		・世界の国々の調査 ・アメリカ	・アメリカ合衆国の ・地図 ・調べてきた資料 ・白紙	・東経135°の経線と北緯35°の緯線を必ず入れ、その交差点に兵庫県西脇市が位置するように描く。 ・描く順序は、①本州②四国③九州④北海道⑤沖縄で描くとい。半島や海峡が離れすぎたり近づきすぎたりしないように注意する。
中2	①見る人にわかりやすく地域のイメージを伝えるイラストマップを描くことができる。	・世界の国々の調査 ・アメリカ	1 アメリカ合衆国の大まかな略地図を描く。 2 主な自然や地名を記入する。 3 アメリカを象徴するタイトルをつける。 4 絵や記号を使って、分布図を描く。	・イラストマップの特性が理解できるよう、写真なども参考にしながら描かせ、描きたい事柄を分布を確認しながら、事柄を分布を確認しながら、

本・世界	<p>②主題図を描くことができる。 ③各種の分布図を描くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 色鉛筆 	<ul style="list-style-type: none"> 作業を進めさせる。 自然環境（山脈、山地、河川、湖沼、砂漠など）を描く場合、地図帳や鳥瞰図、高さを表す地図や写真を参考させる。 記号を使う場合、わかりやすくさと大きさに気をつけせる。 凡例を必ず入れさせる。 イラストが得意な生徒はイラストを利用する。不得意な生徒は模式的な方法で描くよう、個々に応じてアドバイスする。
		<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパの地図 ヨーロッパの地図
	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな面から見た日本世界と日本の人団構成 	<ul style="list-style-type: none"> 統計資料を見て、高齢者人口割合が日本よりも多い国を見つけ、地図に色を塗る。 2 1990～1998年の平均人口増加率を地図中に色を塗つて示す。
	<ul style="list-style-type: none"> 日本立国・日本の特色 	<ul style="list-style-type: none"> 統計資料を見て、白地図に表すため、統計資料を見て、白地図の都道府県の中に同じ記号を入れる。
中 3		<p>①見る人にわかりやすく各種の分布図を描くことができる。</p> <p>①見る人にわかりやすく各自工夫した各種の分布図を描くことができる。</p>
		<p>統計資料を活用しての分布図づくり</p>



りを基盤として（世界・歴史）

※参照

- ・「地図でつくる基本学力」すぐに使えるオモシロ活動FAX集（北後夫著明治図書）
- ・「地名と地図の地理教育」—その指導の歩みと課題—（田中耕三著古今書院）

描図能力段階表（高校）

発達段階	描図を通して培わせたい活用能力	描図を利用するこことにより理解が深まる单元例	学習活動例	留意事項
高校	①さまざまな事象に関して時間的な変化・変遷や空間的な変化・変遷を理解することにより、地理的・歴史的思考力を養成する。 ②具体的な作業を通じて社会的事象への興味・関心をより高め、その事柄について実感し深く理解できる力を養成する。	【日本史】 明治維新と富国強兵（苗木藩の廃仏毀釈）	1、岐阜県の市町村単位の白地図を用意する。 2、市町村ごとに多い葬祭の形式と寺の数を調査し、それぞれ色分けして描図する。 3、出来上がった地図からみられる特徴を列挙し、どうしてそのような特徴がみられるのか考察する。 4、苗木藩で徹底した廃仏毀釈がおこなわれた背景と民衆はどのように感じていたのか、史料から考察する。	調査についてはグループ分けし、インターネットや電話を利用して役所などから調査する。
		【世界史】 イタリアの統一 ドイツの統一	1、生徒にイタリアとドイツの白地図を配布する。黒板にはイタリアとドイツの白地図を掲示する。 2、イタリアとドイツの統一過程を揭示した白地図を使って説明する。生徒は自分の白地図に色分けしながら描図する。 3、描図した地図からイタリアとドイツの統一過程とその背景について考察する。	
		【地理】 農産物の生産と流通	1、アメリカ合衆国における自然条件（気温、降水量など）を調べる。 2、1960年当時における綿花栽培量の上位州を着色する。 3、1960年当時における州別人口構成から黒人人口の割合が多い州を着色する。 4、現在の綿花栽培量の上位州を着色する。 5、現在の州別人口構成を描図する。 6、綿花栽培地域の変化について考察する。	
		【地理】 民族・領土からとらえた日本	1、日本の都道府県別外国人登録人数の対人口比率を計算する。 2、外国人登録人数比率について図形表現図または階級区分図を作製する。 3、都道府県ごとの産業別人口比率と比較、考察する。 4、外国人登録人数比率の上位都道府県の外国人出身国について、その背景を考察する。	
		【地理】 都市居住問題	1、日用品・食料を購入する店を調査する。（回数、交通手段、担当者など） 2、岐阜地区の大規模店舗の位置を地図に記入する。 3、岐阜地区的コンビニエンスストアの位置を地図に記入する。 4、自宅からよく行く店舗まで線で結ぶ。 5、消費行動とライフスタイルの変化を考察する。	
		【現代社会】 世界の人口と食料問題	1、世界地図の略図を描図する。 2、描いた地図に2000年大陸別人口を書き入れる。 3、2を参考にして2050年の推測大陸別人口をもとに世界略図を書き換える。（アフリカ大陸が8億人→21億人と2.6倍になるので面積をほぼその大きさに書きかえる） 4、世界食糧計画（WEP）、ハンガーマップ（栄養不足人口）と書き換えた略図と比較、考察する。 5、4をふまえて世界の人口・食料問題について考察する。	世界地図の略図はフリーハンドで方眼紙に描く。方眼の目盛りを使って倍率を考えて書き換える。
		【現代社会】 日本の人口問題	1、全国都道府県人口と人口性比、1960年～2000年までの人口増加率のデータと日本の都道府県単位の白地図を用意する。 2、そのうち人口増加率のデータを利用し、1960-65年と1995-2000年の階級区分図を描図する。その際4階級に区分するが、それぞれ何%で区切ればよいか考える。 3、この地図から人口増加（減少）の特徴はどのように変化したかを考察する。 4、人口性比と人口増加率の特徴からわかる分析を分析する。	階級区分図のデータの区分の仕方で受ける印象が変わるので描図のさいに留意する。
		【現代社会】 資源・エネルギー問題 (原子力発電をめぐる問題)	1、日本の都道府県単位の白地図を用意する。 2、現在の日本の原子力発電所の位置を調べ、1基1ドットとしてシールを貼る。 3、その地図を切り抜き、チェルノブイリ原発事故における放射能汚染状況をあらわしたヨーロッパ地図に重ね合わせる。 4、現在の主な国（日本、アメリカ合衆国、フランス、ドイツ、イギリス、中国）の総発電量に対する原子力発電の割合のグラフを見て、特徴をあげる。 5、これらの地図やグラフから原子力発電をめぐる問題点について考察する。	ヨーロッパの地図にはチェルノブイリ原発を中心に大気中の放射能レベル平常値との比較（○倍）が2000kmまでの範囲で示しておく。 日本の美浜原発をチェルノブイリ原発の位置にあわせる。

3. 実 践

(1)– 1 小学校社会科 第3学年における授業展開

【単元名】 「市の様子」(全12時間)

【単元のねらい】 自分たちの住んでいる身近な地域や市（区、町、村）について、観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考へるようになる。前時までに調べてわかったことをガイドマップにまとめることができる。

【単元の流れ】

- ・店や役所の多いところ (2時間)
- ・畠の多いところ (2時間)
- ・山に囲まれたところ (2時間)
- ・じゅうたくの多いところ (2時間)
- ・旅館やホテルの多いところ (1時間)
- ・ガイドマップをつくろう (3時間) 本時

【本時のねらい】 前時までに調べてわかったことをガイドマップにまとめることができる。

【つけたい描図能力】 市（町・村）の略地図や簡単な分布図を描くことができる。

【授業展開】 (3時間扱い)

学習活動	指導上の留意点
<p>①自分の住んでいる市のことを見ながら、自分たちの住んでいる市がわかるようにガイドマップをつくろう。</p> <p>【課題】自分たちの住んでいる市がわかるようにガイドマップをつくろう。</p>	本時までに 店や役所の多い所、畠の多い所、山に囲まれた所、住宅の多い所、旅館やホテルの多いところについて学習をしている。
<p>②課題を知る。</p> <p>③市の簡単な地図を作る。</p> <ul style="list-style-type: none">・市の形を描く・市の詳しい地図を見ながら高いところに色をぬる・おもな川を描く・おもな鉄道や道路を描く <p>④教科書にある「あきらさん」「みさきさん」の作品のよさに気付く</p> <ul style="list-style-type: none">・特徴のある場所を○で囲んでいる。・色を分けて書いている。 <p>⑤作った地図にわかっていることを書き込み、仕上げる。</p> <ul style="list-style-type: none">・店や役所の多いところ・畠の多いところ・山に囲まれたところ・じゅうたくの多いところ・旅館やホテルの多いところ	東京書籍「新しい社会3・4上」教科書P27やP38を参考にする。 ※市の略地図を描くためにトレーシングペーパーを用いて副読本「わたしたちの岐阜市」P4の地図を写す。
	東京書籍「新しい社会3・4上」教科書P38やP39を参考にする。
	評価基準【技能表現】 わかったことを見やすくわかりやすくガイドマップにまとめることができたか。

(1)-2 実践のまとめ

①具体的な地図資料活用場面

今回の実践では、本校が岐阜市に位置しているため、岐阜市の白地図を用いて岐阜市の形を描画することから始めた。岐阜市のことを探る人たちは岐阜市のこと教えようという目的を持ちガイドマップ作りを行った。具体的な手順は実践の授業展開にあるように

- 岐阜市の地図の上からトレーシングペーパーを重ねて写すことにより市の形を正確に描く。
- 長良川を描く。
- 山の多いところに色塗りをする。
- 岐阜駅や線路を描く
- の順に行った。



②地図資料活用場面での児童生徒の反応

授業展開にあるように課題ができたときに、教師から「知らない人に知つてもらうにはどんなガイドマップをつくりたいの？」と投げかけられたときに「岐阜市のことを見ただけで分かるようにしたい。」「市の形も正しく描いた方がいいんじゃない。」と答え、岐阜市のことを探つてもらうためには正しい地図を描かなくてはならないと意識することができていた。

作業を始めると丁寧になぞり始め、高い所に色付けをしたり、長良川を描きいれたりして作業を進めた。

その後、自分のガイドマップに作製した地図を貼り付け、それを用いて特徴のある地域につ

いての紹介を記入することでガイドマップを完成させていった。

③児童生徒の変容と課題

3年生の児童は今まで、自分で地図を描いてまとめるという活動は行った経験がなかった。学校のまわりについての学習も教師から与えられた白地図に記入するという活動だけであったが、今回は学習したことを自分で地図を描いてまとめるという活動を行ったことにより、より自分で学習を進めたという実感が沸いてきていた。

学習後、今までに描いたことのある岐阜市の地図と今回作成した「岐阜市ガイドマップ」を比べたA男は

「こうすると正しく地図が描けるんだね。」「すごくいいガイドマップができたよ。」
と喜んでいた。

課題としては、子ども達の作業がとても丁寧であり、経験もないため説明に時間がかかり、実際には「岐阜市ガイドマップ」作りに3時間以上の時間を費やした。地図を描いてまとめるという活動を行ったことがないため、実践の展開にもあるように、ただ地図を作製するというだけではなく、どんな工夫をするとよいのかを考えさせてから活動を行う必要がある。



(1)-3 参考資料

【資料1】児童の作品



【資料2】児童の作品



3. 実 践

(2)– 1 小学校社会科 第5学年における授業展開

【単元名】 「わたしたちの生活と工業生産」(全20時間)

【単元のねらい】 我が国にはさまざまな工業製品があり、それらが国民生活を支えていることやそれらの生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸の働き、工業地域の分布などを、各種資料や地図帳、地球儀などを活用して調べ、我が国の工業生産は、国民生活を支える重要な役割を果たしていることについて考える。

【単元の流れ】

- ・自動車をつくる工業 (10時間)
- ・工業生産と工業地域 (5時間) 本時1／5
- ・工業生産と貿易 (5時間)

【本時のねらい】 都道府県別の製造品全出荷額が分かる統計資料を用いて上位の都道府県に色付けをすることで分布図を描くことを通して、工業のさかんな地域を見つけることができる。

【つけたい描図能力】 統計資料を用いて分布図が描ける。

【授業展開】

学習活動	指導上の留意点
<p>①身の回りの工業製品はどこでつくられているのかに疑問を抱く。</p> <ul style="list-style-type: none">・農業の時とは違って町に近い所ではないかな。・日本の中でも工業がさかんな地域があるはずだ。 <p>②課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"><p>【課題】日本の工業がさかんな地域を見つけるために分布図で表そう。</p></div>	
<p>③統計資料を用いて出荷額の多い都道府県に色づけをする。</p> <p>□製造品全出荷額が10兆円以上の都道府県に赤で色を塗る。</p> <ul style="list-style-type: none">・愛知、神奈川、静岡、大阪、埼玉、兵庫、千葉、東京、茨城 <p>□製造品全出荷額が5兆円以上10兆円未満の都道府県に別の色で塗る。</p> <ul style="list-style-type: none">・三重、栃木、福岡、群馬、広島、岡山、滋賀、長野、山口、福島、北海道、岐阜、	<p>※使用する地図は、都道府県が分かる白地図を用いる。</p> <p>※都道府県別の製造品全出荷額を示す統計資料を児童に配布する。【資料1】 (工業統計 産業編参照)</p> <p>※色塗りをしながら順位の情報を入れている児童を認めるとする。</p>
<p>④色付けをした地図を用いて工業の盛んな地域を見つけて発表する。</p> <ul style="list-style-type: none">・関東地方に多い。・太平洋側に多い。・内陸より海沿いに多い。・人口の多い大都市周辺に多い。	<p>評価基準【技能表現】</p> <p>統計資料を用いてわかりやすく分布図にあらわしている。</p>
<p>⑤色付けした都道府県が一番多く入る2本の平行な直線を書き、太平洋側で工業が盛んなことを知る。</p>	

(2)– 2 実践のまとめ

①具体的な地図資料活用場面

これまで5年生では、米作りの盛んな地域や水産業の盛んな地域の学習をしてきている。それぞれの学習では、盛んな地域を見つけるために白地図を用い、そこに生産量や水揚げ高の多い都道府県を色付けするような作業を行ってきている。

今回の実践でも工業の盛んな地域はどこなのかという児童の疑問を解決するために行った。具体的な手順は実践の授業展開にあるように

- 工業製品出荷額が10兆円以上の都道府県に色付けをする。
- 工業製品出荷額が5兆円以上の都道府県に色付けをする。

の順に行った。この作業を行うことで工業製品出荷額の多い都道府県の分布を見ることができ、太平洋側に集まっていることを視覚的にも理解することが可能になると考えた。



②地図資料活用場面での児童生徒の反応

授業展開にあるように課題ができたときに、工業生産額の多い都道府県を地図帳で確認しながら色付けをしていた。色塗りをしているときには、「何か集まっているのが分かるな。」「何でこのあたりに分布しているのかな？」とつぶやいて作業を行っていた。そこで教師から「塗り終わった分布図をみてどんなところに多いのか考えてみよう。」との問いかけに対して、海沿いに多いとか大都市周辺に多いことに気付いていった。さらにその理由も考える児童の姿も多く見られた。

③児童生徒の変容と課題

児童は、どこに多いのかという疑問を解決するためには、統計資料を用いて白地図に表すことと分布を見つけることができると考えられるようになっている。

課題としては、白地図に表現する時に都道府県の位置が明確になっていない児童が多く存在しているため、地図帳を用いて作業を行ったことにより、時間がかかってしまったことである。

また、5年生になり平行な直線の書き方を学習したのであるが、平行な直線を描けない児童が存在したり、色付けされたほとんどの都道府県が入るように平行な直線を描くように学習を進めたりしたが、北海道が入らないことに疑問を抱く児童も多かった。

そこで、予め長方形（ベルト）を用意し把握させたり、製造品出荷額を7兆円以上の都道府県を色付けするように変更したりすることでより、理解を進めることができるを考えている。

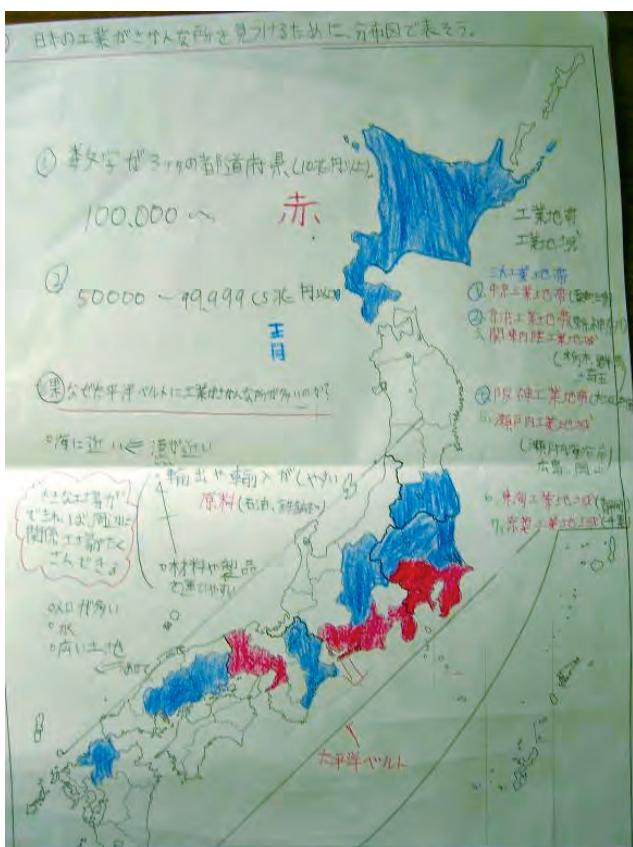


(2)-3 参考資料

【資料1】【工業製品出荷額】(平成17年 工業統計より)

都道府県名	工業製品出荷額(百万円)	都道府県名	工業製品出荷額(百万円)	都道府県名	工業製品出荷額(百万円)
愛知	39586293	東京	11003076	岡山	7311602
神奈川	19451281	茨城	10794609	滋賀	6407305
静岡	17457887	三重	9481424	長野	6291551
大阪	16684113	栃木	8617994	山口	6037296
埼玉	13937170	福岡	7796924	福島	5584264
兵庫	13564549	群馬	7795438	北海道	5508444
千葉	12147864	広島	7790451	岐阜	5157170

【資料2】児童の学習プリント



【資料3】児童の学習プリント



3. 実 践

(3)-1 中学校社会科 第1学年における授業展開

【単元名】「世界のすがたとさまざまな地域」(全7時間)

【単元のねらい】国境の意味、国名の由来、大きい国と小さい国、遠い国、海洋国と内陸国など、さまざまな視点から世界の国々を大観することができる。

【単元の流れ】

- ・世界の国々を知ろう (1時間)
- ・世界の地域区分 (1時間)
- ・国と国を分ける国境 (1時間)
- ・いろいろな国を探そう (1時間)
- ・世界旅行を企画しよう (3時間・本時含む)

【本時のねらい】世界の陸地のおおよその形と大陸・州別の形をとらえ、描き表すことができる。

【つけたい描図能力】世界旅行を企画する活動を通して世界の国々の名称とその形を自分の地図として簡潔に描き表すことができる。

【授業展開】(5/7)

学習活動	指導上の留意点
<p>①旅行パンフレットのテーマある魅力的な旅行を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none">・おもしろそうな企画だ。・行ってみたいな。・おもしろそうな企画を立てたいな。 <p>【課題】魅力ある世界旅行計画プランを作成しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none">・世界の国々の様子を写真と資料から提示して、生徒の興味を喚起する。
<p>②旅行計画を立てる前に略地図を描く練習を行う。</p> <p>※太いペン、細いペンなど生徒の実態に応じてチャレンジさせる。 世界地図らしくするために、必要な部分（形・半島・岬など）はどこか考えながら描く。</p> <ul style="list-style-type: none">・必要な部分を交流して、自分の描画に生かす・インド、マレー半島、スカンジナビア半島、ギニア湾、メキシコ湾など、形を決めていくポイントとなる部分を明らかにしていく。・ポイントとなる部分以外は、どんどんと省略しながらも、世界地図と分かる工夫をしていく。・素早く書き表せるように、省くべきものは省いていく。	<p>※作業でつかんだことを「学び合い」で確認することで特徴をつかみ、誰もが描画できるようめざす。</p> <p>※入り込んだ海岸線などを省略し、おおまかに形と面積をとらえるために、太いマジックを使って、トレースさせる。</p> <ul style="list-style-type: none">・トレース用白地図【資料1】・略地図【資料2】・準備するものとどのようにして手に入れるのかまで、具体的に確認する。
<p>③魅力ある旅行プランを立てるためには、どんな準備を進めればよいのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none">・旅行社のパンフレットは参考になるな。・写真があると興味を引くな。・その国のことについての情報もあるといいな。（言葉・通貨など）	<ul style="list-style-type: none">・旅行計画【資料3】
<p>④旅行計画を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none">・世界中のおいしい食べ物を食べ歩きたい。・世界遺産を見て回りたい。・メジャーリーグやセリエAなどスポーツ観戦したい。	
<p>⑤本時の評価と次時に向けての準備について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none">・本時の評価3分間で世界地図を描く。 自分の作品を見て自己評価する。さらに自己評価とともに、仲間に見てもらい、相互評価を行う。・次時に向けての準備の確認 パンフレット、資料の準備	<ul style="list-style-type: none">・評価用紙と作品を回収し、教師の評価を行う。

(3)－2 実践のまとめ

①具体的な描図場面

【資料1】提示場面

これまでの学習で活用してきた地図は、この資料1の上にあるものであった。生徒たちもこの地図が世界地図であり、本時においてもこの地図を描くと考えていた。そこで、資料1にある下の地図を提示することとした。この地図を見た生徒たちに次のように問い合わせた。「これは何に見えますか？」生徒たちの反応は、「世界地図」であった。この問い合わせから、正確な地図だけが地図というわけではなく、その用途に合わせて簡潔に示すことができることの大切さを理解することができた。

【資料2】作製場面

地図を描くことが目的ではないため、生徒たちの取り組みは大変意欲的であった。旅行会社のパンフレットやインターネットで入手した写真などを活用して、「世界遺産巡り」「世界食べ歩き」「世界のスポーツ観戦」など生徒たちの興味関心のあるテーマで進めることができた。また、この地図に都市の位置を記入させていくことや効果的な周り方や時差なども求めてツアープロジェクトを企画していく生徒も見られた。

②描図場面での児童生徒の反応

世界地図を見たことはあるが、実際に活用した経験のない生徒たちに世界地図をより身近に感じ、活用していくとする態度を育てたいと考えた。

そこで、本单元では、世界の国々の「文化」「自然」といった視点から、興味・関心を引き出し、旅行計画を立てるという場面設定をし、具体的な作業を通して地図を自分のもの（描画）していくことをねらった。こうした点をふまえた学習の中で、次のように学ぶ姿があった。

私は、食べ歩きツアーを計画するために、世界のおいしそうな料理を図書館で調べました。いろいろな食べ物があって、いっぱい調べました。地図にまとめてみると調べた国が、ヨーロッパと東南アジアに集まっていることに気づきました。

した。

地図を描くことは、最初はうまくできなかつたけれど、簡単に描くことができるといろいろと便利なことがあることがわかりました。

この生徒は、略地図を具体的な活動の中で、描くことを通じて、便利さを知ることができた。こうした略地図を描くことの有益さを体感する経験が、今後の学習や、日常の中での地図の描画につながるとともに、繰り返し、自分の略地図を描く力につながると考える。

③児童生徒の変容と課題

以下の作文は、授業後の生徒の感想である。

世界のいろいろな国の名前は、知っている国が多かったけれど、場所ははっきりと知らなかつたし、世界地図も見たことはあったけれど、実際に描こうとすると描けなかつた。分かっているようで分かっていなかつたことがよく分かりました。世界旅行計画を立てるために、旅行社のパンフレットを集めたり、切り抜いて貼り付けたりして楽しく取り組めました。それに、世界地図を自分の手で描くことができると、こんなに便利なのかと思いました。

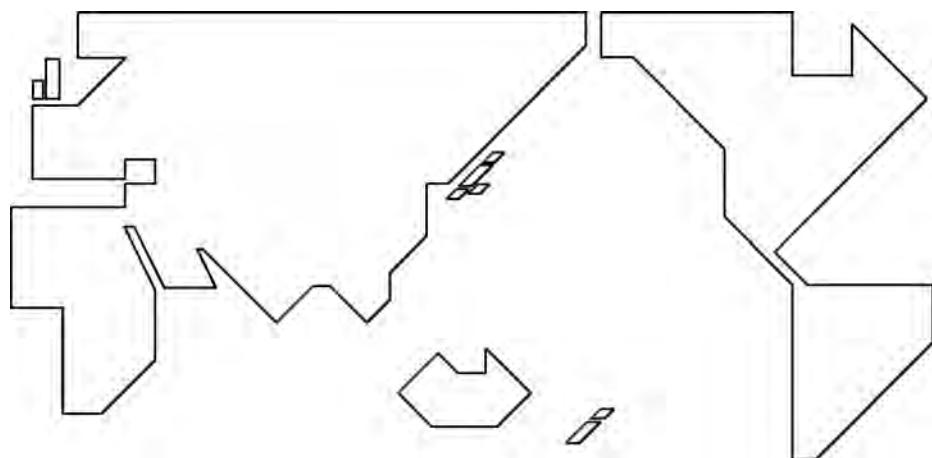
生徒の関心があるテーマをもとに、世界旅行計画を立てるという活動を仕組むことで、世界の国々を積極的に調べようとすることができると同時に、描画することの必然を生み出すことができた。また、自分の世界のとらえが、ぼんやりとしたものであり、つかめていないことに気付くこともできた。そうしたとらえをした生徒に対して、略地図の書き方を指導したこと、略地図の有用性をとらえさせることができたと言える。

○世界地図を単に描かせるのではなく、描く必然をもたせる工夫が、生徒の意欲を引き出し、どの生徒にも略地図を描かせることができた。

●略地図の活用の場をさらに広げていくことで、自分なりの地図をもつことの大切さをつかませる必要がある。

(3)-3 参考資料

【資料1】トレース用白地図



【資料2】略地図（生徒作品）



【資料3】世界旅行地図（生徒作品）



3. 実 践

(4)-1 中学校社会科 第1学年における授業展開

【単元名】 「日本のすがたとさまざまな地域」(全6時間)

【単元のねらい】 日本の国土の位置および領域の特色と変化を世界的な視野から多面的・多角的に考察し、日本の現状の位置と領域の面から大観することができる。

【単元の流れ】

- ・日本の位置を調べよう (1時間)
- ・日本の広さを調べよう (1時間)
- ・日本をいくつかの地域に分けよう (1時間)
- ・都道府県を確かめてみよう (1時間)
- ・いろいろな視点から都道府県をながめてみよう (1時間)
- ・日本の略地図をえがいてみよう (本時)

【本時のねらい】 日本列島のおおよその形と地域区分を作業を通してとらえ、書き表すことができる。

【つけたい描図能力】 日本列島の形と面積といったおおよその特徴をとらえ、自分の地図として簡潔に書き表すことができる。

【授業展開】 (6／6)

学 習 活 動	指導上の留意点
<p>①日本列島を描いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none">・難しい・うまく描けない・紙に描ききれない。北海道が大きすぎた。 <p>②うまく描けた生徒の作品を参考にして取り組む。</p> <p>※机間指導でうまく描けている生徒の作品を実物投影機で紹介して、コツを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none">・全体を薄く大まかに描いてから、始めると大きさのバランスがとれるよ。・本州の東北部は、南北に伸びているけれど、中央部から南西部にかけては東西に伸びている。折れ曲がっている。 <p>※教師が師範</p> <ul style="list-style-type: none">・どうしたらうまく描けるのかな？・何かコツがあるはずだ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"><p>【課題】</p><p>日本列島を書き表すためには、どのような特徴をつかめばよいか。</p></div> <p>③トレーシングペーパーを使って、日本列島を書き表す。</p> <ul style="list-style-type: none">・これならうまく描けそうだ。 <p>④日本列島らしくするために、必要な部分（形・半島・岬など）はどこか考える。【1次作業】</p> <p>⑤ポイント交流</p> <ul style="list-style-type: none">・弓のように本州は、反っている。・紀伊半島や能登半島など、必要な半島は描いたほうがよい。・○○さんの地図は、思い切って省略されているけれど、日本だとすぐに分かる。あれなら誰もが描けると思う。 <p>⑥必要な部分を意識して日本列島を書き表す。【2次作業】</p> <ul style="list-style-type: none">・どんどんと省略しながらも、日本列島と分かる工夫をしていく。・素早く書き表せるように、省くべきものは省いていく。 <p>⑦評価</p> <p>※トレーシングペーパー無しで、3分間で日本列島を描く。</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の作品を見て自己評価する。さらに自己評価とともに、仲間に見てもらい、相互評価を行う。	<p>※プリント【資料1】を準備して、その日本列島の東西の位置を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none">・実物投影機・拡大白地図 <p>・生徒作品と教師の師範から、生徒の意欲を引き出し課題をつくる。</p> <p>※入り込んだ海岸線などを省略し、おおまかに形と面積をとらえるために、太いマジックを使って、トレースさせる。</p> <ul style="list-style-type: none">・トレース用白地図 <p>【資料2】生徒の作業の様子</p> <p>※一次作業でつかんだことを「学び合い」で確認することで特徴をつかむとともにねらいの到達をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none">・評価用紙と作品を回収し、評価を行う。

(4)－2 実践のまとめ

①具体的な描図場面

【資料2】生徒の活動

日本列島を最初に描かせ、自分の描図の力を知ると共に、学習後の「できた」という実感をより強くもたらすことを意図した。

トレースする方法は、「世界旅行を企画しよう」でも取り入れているため、比較的スムーズに取り組むことができた。また、略地図を描くことの意義も学んでいるため、略地図や簡素図に取り組む生徒も見られた。

本時意図したのは、「自分の地図」つくりである。これから学習する場面において「自分の地図」を素早く描くことが、学習効果を上げることにつながることをねらっている。また、生活の場面においても、具体的に思い描くことができ、有益であることを体感させたいと考えた。生徒たちは、ポイント交流を通して、日本列島の形の特徴と必要な部分（岬や半島）をつかむことができた。一人一人の描図した日本地図は、学習前と比べて大きく変わり、見比べることで「できた」と学びを実感することができた。

②描図場面での児童生徒の反応

生徒たちは、前単元「世界の姿とさまざまな地域」において、世界地図の略地図を作製している。この時に学んだ「太いマジック」の簡略化といった方法を駆使して日本地図を描くことを通じて、日本列島の特徴をとらえさせたいと考えた。

また、これまでに開発された略地図を参考しながらも、自分自身がつかんだ特徴を描いた日本地図を描かせていくことをねらいとしている。

こうした点をふまえた学習の中で、次のような学ぶ姿が見られた。

デッサンの力が優れるAさんは、進んで描図に取り組み、概要図に似た日本地図を作製した。

デッサンが苦手なBさんは、できるだけ直線や三角形、四角形を使った簡略図を描いた。

ポイント交流では、Aさんの概要図とBさんの簡略図を全体で提示し、それぞれのよさを交流した。この交流での生徒の発言の一部を紹介する。

Aさんの地図の方が上手だと思っていたけれど、Bさんの地図の工夫点を聞いて、よく特徴をとらえていることが分かった。自分の地図にも生かしたい。

③児童生徒の変容と課題

以下の作文は、授業後の生徒の感想である。

日本列島を最初描いたときは、北海道と本州の途中でノートがいっぱいになってしましました。だから、九州は小さくなってしまって、とても格好の悪い地図でした。

細かく描くことが、上手に描くポイントだと思っていたけれど、先生やみんなから、できるだけ簡単に描くといいよと教えてもらいました。本当かなと疑問でしたが、実際に描いてみると日本列島らしく描けてうれしかったです。

習字紙を使って写したんだけど、どうしても細かく描いていくうちに、時間がものすごくかかってしまいました。それに、ノートに描くとまた、下手な地図に戻ってしまってダメでした。でも、太いマジックで描いていくうちに、細かなことを気にするのではなくって、日本列島の形を自分なりのコツで描くことが大切なんだと分かりました。

○トレース紙と太マジックの活用で、日本列島の形を誰もが大きくとらえることができた。

○生徒のもち味を生かすように、略地図のパターンを複数準備することで、それぞれのよさを認め合うことができたと同時に、「自分の地図」を描こうとする意欲が高まった。

●今後も地図化することを常に心がけることで、生徒の描画に対する感覚や技能を高めていく必要がある。

(4)-3 参考資料

【資料1】学習プリント

「M Y 日本列島」を描こう

1年 組 名前 ()

○下の白地図の上にトレーシングペーパーをひいて、太いマジックを使って海岸線をなぞろう。



【資料2】生徒の学習の様子



3. 実 践

(5)-1 中学校社会科 第2学年における授業展開

【単元名】「世界の国々の調査～多面的に調べよう（アメリカ）～」（全6時間）

- 【単元のねらい】・多面的な視点からの学習方法を体験し、国の特色をとらえる視点とその方法を習得する。
・統計資料の分析、地図や写真の読み取りや比較・関連づけ、調査結果の表現能力を学ぶ。
・調査した国への関心をその他の国への関心へと継続させ、国家規模の地域的特色をとらえる。

【単元の流れ】

- ・アメリカの情報を集めてみよう (1時間)
- ・アメリカの自然 (1時間)
- ・大規模な農業 (1時間)
- ・巨大な工業力 (1時間)
- ・さまざまな民族と文化 (1時間)
- ・マップ・オブ・アメリカ (本時)

【本時のねらい】アメリカ合衆国について様々な面（面積、人口、自然環境、人種民族、文化、産業、世界との結びつきなど）から調べてきたことを取捨選択し、効果的にイラストマップにまとめることを通して、多面的なアメリカ合衆国を理解することができる。

【つけたい描図能力】見る人にわかりやすく地域のイメージを伝えるイラストマップを描くことができる。

【授業展開】（6／6）

学習活動	指導上の留意点
<p>①アメリカ合衆国について様々な面（面積、人口、自然環境、人種民族、文化、産業、世界との結びつきなど）から調べてきたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none">・面積…大きな国土・自然環境…多様な自然・文化…世界に広がる文化・産業…企業的農業、豊かな資源、進んだ工業・世界との結びつき…経済、政治、軍事のリーダー <p>②本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"><p>【課題】 アメリカ合衆国について様々な面から調べてきたことを取捨選択し、見る人にわかりやすくイラストマップにまとめよう。</p></div> <p>③イラストマップづくりの手順を確認し、描く。</p> <ol style="list-style-type: none">1 アメリカ合衆国の大まかな略地図を描く。2 主な自然や地名を記入する。3 アメリカを象徴するタイトルをつける。4 絵や記号を使って、分布図を描く。 <p>5 調べてわかったことや発見したことが他の面とどのように結びついているか考え、文章でまとめてみる。</p> <p>④完成した仲間のイラストマップと見比べ、いろいろな視点から多面的にアメリカ合衆国について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none">・ヒスパニックはラテンアメリカからの移民なので、アメリカ南部に集中して暮らしている。・降水量と農業地域は密接に結びついて、大規模な生産が行われている。・多くの移民によって、経済が活発になり、さらにアメリカに移住したいと願っている人々がたくさんいる。さらに、その人々によって、最先端の産業が発達し、世界をリードしている。	<p>※準備物</p> <ul style="list-style-type: none">・アメリカ合衆国の地図・調べてきた資料・白紙・色鉛筆
	<p>※イラストマップを配布する。</p> <p>【資料1】</p> <p>※イラストマップの特性が理解できるよう、写真なども参考にしながら描かせ、描きたい事柄の分布を確認しながら、作業を進めさせる。</p>
	<p>※自然環境（山脈、山地、河川湖沼、砂漠など）を描く場合 地図帳の鳥瞰図、高さを表す地図や写真を参考させる。</p>

(5)－2 実践のまとめ

①具体的な地図資料活用場面

今回の実践は、世界の国々を取り扱う中でも最初の国であり、どちらかといえば、生徒にとって国名をよく知っているアメリカ合衆国である。しかし、アメリカ合衆国の地理的な位置は知っているものの、国内の自然環境をはじめ、農業や工業のようすなどはあまり知らない。

そこで、このアメリカ合衆国を次の7つの面から一斉に学習する形で、多面的なとらえとした。

- ①自然環境（地形、気候）
- ②面積
- ③人口
- ④民族、歴史的背景
- ⑤文化
- ⑥産業（農業、工業）
- ⑦世界との結びつき

これらを学習した上で、見る人にわかりやすくイラストマップにまとめる形で、地図作製にあたった。地図作製の手順は以下のようである。

- 1 アメリカ合衆国の大まかな略地図を描く。
- 2 主な自然や地名を記入する。
- 3 アメリカを象徴するタイトルをつける。
- 4 絵や記号を使って、分布図を描く。
- 5 調べてわかったことや発見したことが他の面とどのように結びついているか考え、文章でまとめてみる。

②地図資料活用場面での児童生徒の反応

「多面的な視点」でとらえる学習をしてきたものの、どの視点を取り上げて地図化するかで迷いを感じている生徒が多かった。そこで、具体的に「農業と気候なら関連性があるよ」とか「どんな自然環境のところに人口が多く住んでいるのかな」と投げかけ、視点をしぼりやすくした。

多面的な視点（今回は最低2点以上の視点を選ぶことを約束した）をとらえた生徒は、地図化の作業につると、黙々と作業を進めた。作業の様子は以下のようである。

- ・丁寧に国境や河川をなぞる。

- ・陸地と海洋を区別するよう薄く色を塗る。
 - ・自然環境に近い色を用いて色を塗る。（山脈は茶色、河川は青色、平野は緑色など）
 - ・主な都市名をほぼ正しい位置に明記する。
 - ・凡例を示し、分布図をつくる。（例えば、鉱工業に視点をもった生徒は、鉄鉱石や油田、炭田の産出地域の分布図をつくる。）
 - ・量的な様子を棒グラフ風にして位置づける。（例えば、日本との結びつきに視点をもった生徒は、アメリカに進出した日本の工場数を棒グラフ風に表記する。）
 - ・世界と関連性を表すのに、矢印を用いて、流入状況を明らかにする。（例えば、民族に視点をもった生徒は、白人や黒人、アジア系の人種・民族が流入してきたことを、その方角に応じて太い矢印を用いて表現する。）
- 生徒それぞれが、見る人を意識しながら、自分なりの工夫をして、地図作製にあたった。

③児童生徒の変容と課題

どちらかと言えば、思考的な学習を苦手とする生徒が、この地図作製の学習では、黙々と学習に励むことができた。

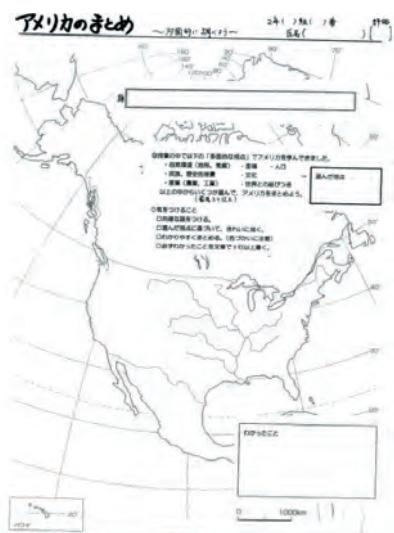
型にはまつた色塗りの地図作製は、今までに経験があり、自分がこう表現したいという思いはあまり反映されなかった。しかし今回、「イラストマップ」という少し自由裁量的な地図作製であったため、友達と1つとして同じ地図がなく、比較したときに友達のよさがたくさん見つけられた。

特に自分が取り上げなかった視点を取り上げている友達の作品を見ることによって、「そんな表現もできるのか」とあらたに吸収することができた。

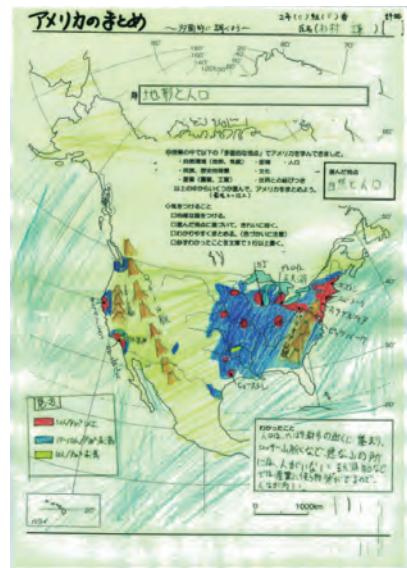
課題としては、地図作製にやはり時間がかかった。1つ1つ丁寧に仕上げようとする姿勢はいいが、能率を上げる工夫を仕組んでいかなければならぬと思う。また、取り上げた視点同士の関連性ももっとわかるように表現できる地図作製の在り方を考える必要がある。

5-(3)参考 資料

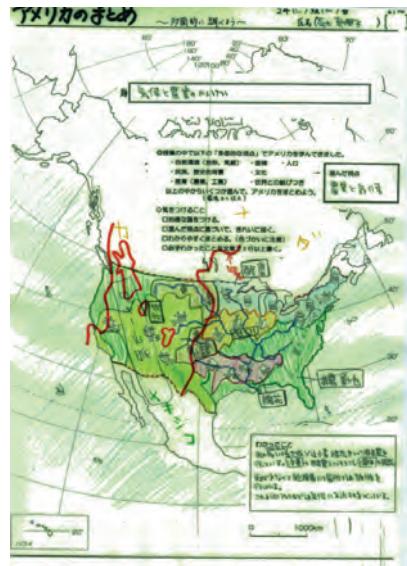
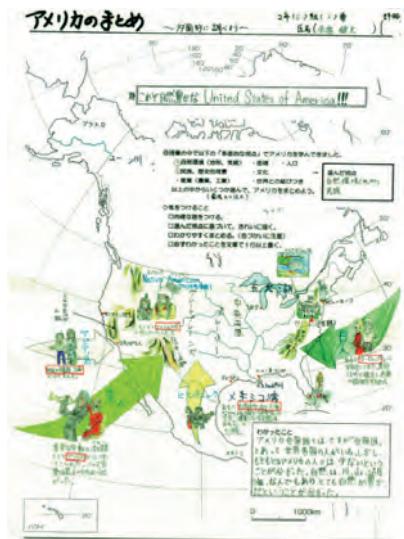
【資料1】「アメリカの白地図」



【資料2】「生徒作品」



白地図フリーソフトをダウンロードして独自に作製



3. 実 践

(6)-1 高等学校公民科「現代社会」 第1学年における授業展開

【単元名】 国際社会の課題（全5時間）

【単元のねらい】 国際社会の動向や諸問題について、具体的な事例を取り上げながら理解を深めるとともに、日本の果たすべき役割および日本人の生き方について考察する。

【単元の流れ】

- ・核兵器と軍縮（1時間）
- ・環境・人口・食料問題（本時）
- ・民族問題と紛争（1時間）
- ・国際社会と人権（1時間）
- ・地球人として～日本の役割～（1時間）

【本時のねらい】 世界人口の動態とその問題点を明らかにし、そのことをふまえて世界における食料問題とは何かを理解し、またその解決に向けての方策について考察する。

【つけたい描図能力】

- ①世界略図をフリーハンドで描図したり、データをもとにデフォルメしたりする作業を通して、地図に対する興味・関心を高め、地図から現代社会に対する思考力を養成する手立てとする。
- ②具体的な作業を通じて現代社会に対する問題意識を高め、その事柄について実感し、より深く理解できる力を養成する。

【授業展開】

学習活動	指導上の留意点
1 学習プリント【資料1】、方眼用紙2枚を配布し、課題Iの作業内容について指示する。 【課題I】方眼用紙1枚に世界地図の略図を描図する。 【資料2・3】	※前もって地図帳を準備せよ。(中学時のものでよい) ※フリーハンドだが、赤道・本初子午線・180度線の3本を入れることで描きやすくなるというヒントを与える。 ※プリントにあらかじめ掲載しておく。
2 課題IIについて指示する。 【課題II】地図中に2000年大陸別人口を記入する。	※机間巡回して作業内容を理解しているかどうか確認し必要に応じてアドバイスする。
3 課題IIIについて指示する。 【課題III】2000年—2050年の増加比を計算し、それにあわせて世界略図を2枚目の方眼用紙に描きかえる。 【資料3】 ・相対的にとらえると、アフリカ大陸が2倍近くにデフォルメされた略図となり、ヨーロッパがやや小さくなる。	※教科書の記述や資料集の記述をヒントにする。
4 これまでの作業を通じて理解した人口動態について考察する。 ・なぜアフリカ大陸は人口爆発が起こるのか、なぜ「多産」なのか、なぜ「多死」から「少死」になったのか、どうして「少産」にならないのかをグループごとに考察して発表させる。	※世界の穀物生産量は世界人口の2倍以上を養うことができる量なのになぜこうした特定の地域で飢餓が起こるのかについても考えさせて、世界の経済システムの矛盾に気がつけるとよい。
5 資料集のハンガーマップを見て、食料問題について考察する。 ・なぜ大陸ごとに飢餓人口の差異が大きいのかについて、これまで見てきた人口問題と関連させてグループごとに考察して発表する。	
6 人口・食料問題の解決への方策を考察する。 ・こうした問題の解決策を話し合い、グループごとに発表する。そのなかで、世界の経済システムの矛盾の解消のために日本が果たすべき役割は何かという点まで深められるとよい。	

(6)－2 実践のまとめ

①具体的な描図場面

本時は、単元「国際社会の課題」において位置づけられた時間であり、学習指導要領現代社会に記されている「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」に基づいた学習として位置づけ、計画したものである。世界の人口と食料問題を題材として、現代世界ではなぜこうした問題があるのか、そしてその問題の本質は何か、どうしたら解決できるのかをテーマに、描図することや、資料の読み取り・分析、グループ討議などを通して現代社会の諸問題に興味と関心を喚起し、問題解決能力を養成することが大きな目標である。本時では、導入でいきなり世界地図を描いてみようという指示を出し、とまどう声が相次ぐなか、徐々にヒントを出したり、机間巡回して上手な生徒のものを見せたりしながら、地図作りへの興味を持たせるよう工夫した。ま



た、完成した2枚の地図からわかる事柄について学習プリントに書き出し、グループ討議して考えをまとめ、発表した。

②描図場面での生徒の反応

授業の導入時に課題を提示した当初はとまどいや不安がかなりあったようだが、赤道・本初子午線・180度線を書き入れることや、机間巡回で生徒個々にアドバイスすることで解消され、それからは主体的に地図作りができたようである。しばらくしてから教師側から見本として世界略図を黒板にフリーハンドで示したのだが、中には短い時間であったにもかかわらず、持参の地図帳を参考にして実際に巧みに世界地図を描いた生徒もいた。地図の作製については、これ

まで現代社会の授業でそうした実践をする場面はあまりなかったため、生徒は隣同士などで、時にはお互い相談したりのぞき込んだりしながら意欲的に取り組むことができたようである。

【資料4】生徒の感想としては、世界地図は意外と簡単に描けることがわかった、受け身で授業を聞くよりも地図作りやグループ討議【資料5】を通して学習する方がよく理解できる、自分たちの幸福な環境を実感する一方で食料問題の深刻さがよくわかった、など好評であったが、1時間に納めるには時間が足らず、結局次の時間に一部かかってしまった点が問題であり、さらに工夫が必要であった。

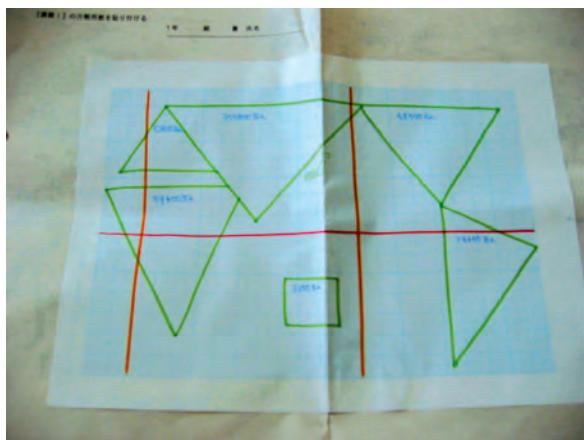
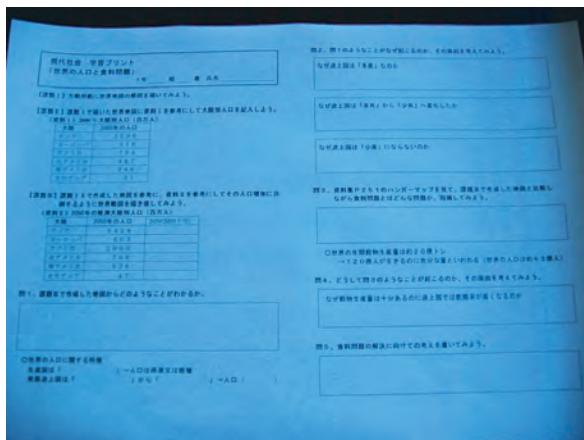
③生徒の変容と課題

この授業は学校支援訪問にあわせて実施し、学校支援課白木指導主事に見ていただいた。

【資料6】ここではその講評の内容にもふれながらまとめたい。白木指導主事からは、まず授業の組み立てについてはよく練られていて、生徒が主体的に授業に取り組める工夫が随所に見られたことが良かった、学習プリントもうまく作られていた、地図作りについては、うまくヒントを出しながら生徒の興味・関心を引き出させていた、など総体的にとても優れた授業であったと評価していただいた。しかし一方で地図作りの時間がかなり長くとられてしまい、そのことだけがこの時間の主題となってしまうと高校の授業としては物足りないのではないかとの指摘をいただいた。やはり1授業時間内で完結させることの大切さとさらなる授業内容の精選が必要であると感じた。しかし生徒は従来受け身になりがちの授業と違って実に生き生きと取り組んでおり、グループ討議も積極的であったことを考えると、高校でももっと生徒の中学校での授業経験をよく理解して授業計画を立てていく必要があると痛感した。

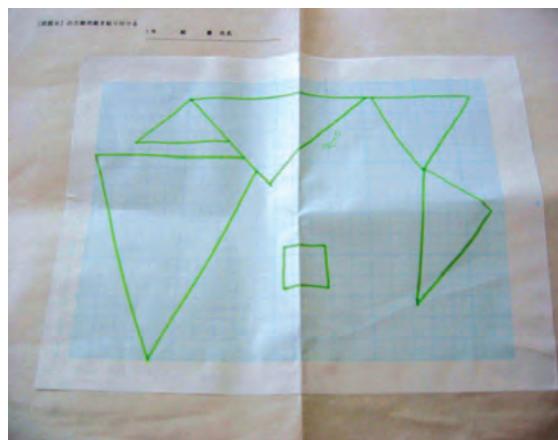
(6)－3 参考資料

【資料 1】学習プリント



【資料 3】生徒作製の略図 (課題Ⅰ)

【資料 2】作業の様子



(課題Ⅲ)

【資料 4】

授業風景



【資料 5】グループ討議の様子



【資料 6】白木指導主事による授業参観



3. 実 践

(7)-1 高等学校地理歴史科「日本史B」 第3学年における授業展開

【単元名】 「明治維新と富国強兵（苗木藩の廃仏毀釈についての主題追究学習）」（全6時間）

【単元のねらい】 明治新政府による諸政策の特色とその影響について理解する。

【単元の流れ】

- ・戊辰戦争と新政府の発足 (1時間)
- ・廃藩置県と四民平等 (1時間)
- ・地租改正と殖産興業 (1時間)
- ・文明開化 (1時間)
- ・初期の国際問題と新政府への反乱 (1時間)
- ・苗木藩の廃仏毀釈についての主題追究学習（本 時）

【本時のねらい】

明治維新期の変革が地域にも多大な影響を及ぼしたことを理解し、廃仏毀釈を徹底させた藩の目的と民衆の動向について考察する。

【つけたい描図能力】

- ・身近な地域における信仰の違いを知ることをきっかけに、歴史的思考を養成する手だてとする。
- ・具体的な作業を通じて地域の歴史に対する興味・関心を高め、その事柄について実感し、よりよく理解できる力を養成する。

【授業展開】

学 習 活 動	指導上の留意点
<p>事前準備 一人ずつ市町村を割り振り、調査を実施する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"><p>【課題】岐阜県内市町村別葬祭の形式の調査及び仏教寺院数の調査を行う</p></div>	<p>※インターネット、電話を利用して市町村行政機関などから調査する。</p> <p>※より効果的に理解できるよう、あらかじめ階級の区分について決めておく。</p>
<p>①調査結果の発表と分布図の作成</p> <ul style="list-style-type: none">・市町村ごとに課題の調査結果を発表し、それに基づいて階級区分図をそれぞれ作成する。・発表された調査結果は黒板に貼られたA0版岐阜県市町村別白地図と各自のB4版白地図に記入する。 <p>【資料1】 【資料2】</p>	<p>※石仏や石碑が割られている写真を使用して廃仏毀釈の激しさを実感できるよう工夫する。</p>
<p>②出来上がった分布図から見られる特徴を列挙し、分析する。</p> <ul style="list-style-type: none">・白川町、東白川村などが特徴的な分布になる。・これらや中津川市の一部、恵那市の一部、八百津町の一部などは遠山氏支配の苗木藩領という共通点があり、かつて激しい廃仏毀釈が行われて地域であることを理解する。	<p>※徹底した様子を知る際に、従わなかつたものへの処罰について記した史料を使用する。</p> <p>※きれいに4分割されている「南無阿弥陀仏」と彫られた石碑の写真から民衆の思いを考察させる。</p>
<p>③苗木藩でなぜこのように徹底した廃仏毀釈が行われたのか、また民衆はそれに対してどのように考え方行動したのか考察する。</p> <ul style="list-style-type: none">・新政府の神道国教化の方針をいち早く取り入れようとした藩の思惑や国学思想の広がりなどを理解し、石碑が割られた写真から、民衆の廃仏毀釈への反抗心に思いをめぐらせる。	<p>※身近な地域から日本全体の歴史を見る視点の大切さにふれる。</p>
<p>④授業のまとめを行う</p> <ul style="list-style-type: none">・中央の歴史が自分たちの住む地方にも大きく関係していることについて実感でき、歴史をより身近に感じられたかを確認する。	

(7)－2 実践のまとめ

①具体的な描図場面

本時は、单元「明治維新と富国強兵」における最後の時間であり、学習指導要領日本史Bに記されている「歴史の追究－日本人の生活と信仰」に基づいた主題追究学習として位置づけ、計画したものである。ふるさと岐阜県を題材として、苗木藩ではなぜ廃仏毀釈が徹底的に行われたかをテーマに、描図することや写真、史料の読み取りなどを通して地域史への興味と関心を喚起し、歴史的思考力を養成することが大きな目標である。本時では事前にクラス全員でデータ集めのための調査活動を実施し、授業の導入でその結果を一人ずつ発表しながら分布図を作製した。

【資料1】 【資料2】



また、完成した2枚の分布図からわかる事柄について学習プリントに書き出し、発表した。

【資料3】

②描図場面での生徒の反応

調査内容について課題を提示した当初はとまどいや不安がかなりあったようだが、一人ずつ担当市町村の役所の電話番号やホームページの紹介を個票にして渡したことで解消され、それからは主体的に調査することができたようである。中には役所に電話したが教えてもらえずどうしてよいかわからないという生徒もいた。分布図の作製については、これまで日本史の授業で描図以外も含めて作業をする場面はあまりなかつたため、意欲的かつとても丁寧に取り組むことができた。ただ一方で、従来の授業の形態と違いが大きいために、わずかではあるが作業の意味について疑問を持つ生徒もいた。生徒の感想としては、新しい発見だった、地域の歴史に興味が持てた、岐阜県の地方自治体のことを知ることができたといったものでおおむね好評であったが、描図よりも写真に興味を持った生徒が多く、さらに工夫が必要であると感じるものであった。

③生徒の変容と課題

従来の授業においては、教科書・図説・オリジナルプリントを使用していたが、今回はいかにして「地図作り」を日本史の授業の中に無理なく取り入れるかが大きな課題であった。しかし、普段使用している図説には、関連の歴史地図などが実にわかりやすく掲載されており、その都度図説で学習することに慣れている生徒にとって、今回の作業はいささかとまどった様子が見られたことも事実である。生徒は普段の授業時に比べて、いきいきとしていて、教師に質問をするなどの変容が見られた。しかし、作業に費やす時間がかなり多く、事前準備の大変さと合わせて再考の余地はあったように思う。やはり1授業時間内でいかに完結させるかを追求することが今後の課題といえる。

(7)-3 参考資料

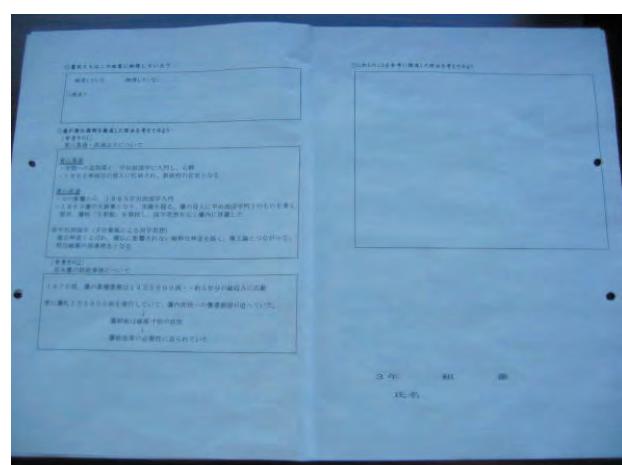
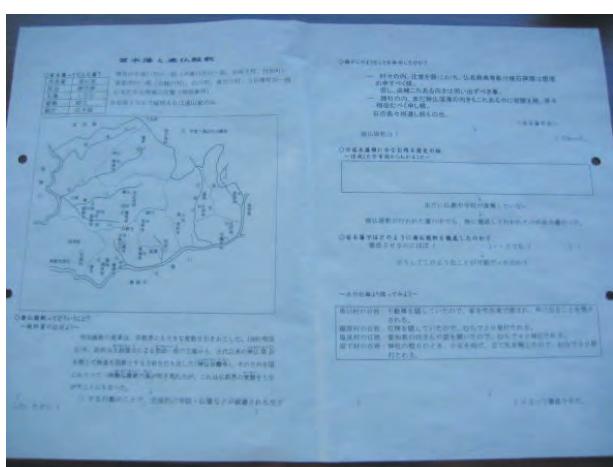
【資料1】作業後完成した分布図



【資料2】学習プリント（作業用）



【資料3】学習プリント（考察用）



4. まとめ

小学校から高等学校にかけて、発達段階に即して描図能力段階表を作製して、少しずつ描図能力の正確性が追究されていることが確かめられた。また、描図する対象範囲が、身近な地域から徐々に広くなり、最後は世界まで広がっていくことも確かめられた。

また、実践研究を重ね、各校種ごとに比較してみるうちに、正確性が求められると同時により簡略性、よりわかりやすさも求められることがわかつってきた。

自分で作製した地図は、いわば自分の社会科の立派な作品である。その作業を繰り返し行う中で、描図に自信をもち、意欲的に思考し学習を深めていく。描図作業を取り入れることは、当初の学習の目標達成のために有効な手段の一つだといえる。

しかしながら、描図作業には思った以上に時間がかかる。限られた学習時間の中で、いかに能率よくかつ有意義な描図作業にできるか、今後の課題としていきたい。なお、以下各学年の成果と課題を述べる。

【成 果】

◎小学校 3年生

=学習したことを自分で地図を描いてまとめたため、より自分で学習を進めたという実感がわいた。

◎小学校 5年生

=どこに分布が多いのかという疑問を解決するために、統計資料を用いて白地図に表すことで分布を見つけることができると考えられるようになってきた。

◎中学校 1年生

=世界地図の略地図を描くことを通して、便利さを知ることができた。繰り返し自分の略地図を描く力になった世界地図を単に描かせるのではなく、描く必然をもたせる工夫が、生徒の意欲を引き出し、どの生徒にも略地図を描かせることができた。また、トレース紙と太マジックの活用で、日本列島の形を誰もが大きくとらえることができた。生徒のもち味を生かすように、略地図のパターンを複数準備したことで、それぞれのよさを認め合うことができたと同時に、「自分の地図」を描こうとする意欲が高まった。

◎中学校 2年生

=自分が取り上げなかった視点を取り上げている友達の作品を見ることによって、「そんな表現もできるのか」とあらたに吸収することができた。

◎高等学校

=世界の白地図に赤道・本初子午線・180度線を描き入れることや、机間巡視で生徒個々にアドバイスすることで、主体的な地図作りにつながり、意欲的に世界地図を描いた。また、分布図の作製については、これまで日本史の授業で描図以外も含めて作業をする場面はあまりなかったため、意欲的かつとても丁寧に取り組むことができた。

【課 題】

△小学校 3年生

=説明時間が多くかかった。作業作製時間に3時間以上かかった。ただ地図を作製するというだけでなく、どんな工夫をするとよいのか考えさせてから活動を行う必要がある。

△小学校 5年生

=日本の白地図に表現する時、都道府県の位置が明確になっていない児童が多く存在していたため、作業時間がかかりすぎてしまった。

△中学校 1年生

=略地図の活用の場をさらに広げていくことで、自分なりの地図をもつことの大切さをつかませる必要がある。今後も地図化することを常に心がけることで、生徒の描画に対する感覚や技能を高めていく必要がある

△中学校 2年生

=地図作製にやはり時間がかかった。1つ1つ丁寧に仕上げようとする姿勢はいいが、能率を上げる工夫を仕組んでいかなければならないと思う。また、取り上げた視点同士の関連性ももっとわかるように表現できる地図作製の在り方を考える必要がある。

△高等学校

=1時間に納めるには時間が足らず、結局次の時間に一部かかってしまった点が問題であり、さらに工夫が必要である。また、描図よりも写真に興味を持った生徒が多く、さらに工夫が必要であると感じた。

(参考資料)

小学校 中学校 高等学校の学習指導要領（社会科）一部抜粋

（ は地図活用能力、描図能力と学習内容との関連事項）

高等学校学習指導要領「地理歴史科」(1999年 発表)

第2節 地理歴史

第1款 目 標

「我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。」

第1 『世界史A』

1 (目 標)

「近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。」

3 (内容の取扱い)

(1) ウ

「風土、民族の扱い、人類の課題の考察、歴史地図の活用などについては、地理的条件との関連に留意すること。」

(2) ウ (ア)

「客観的かつ公正な資料に基づいて歴史の事実に関する理解を得させるようにすること。」

第2 『世界史B』

1 (目 標)

「世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。」

2 (内 容)

(1) ア 世界史における時間と空間

「時計、暦、世界地図、都市地図などから適切な事例を取り上げて、その変遷や意義を追究させ、の時間意識や空間意識が時代や地域により異なることに気付かせる。」

3 (内容の取扱い)

(1) イ

「具体的な歴史の展開を通して、文化・文明などの概念、年代の表し方、時代や地域の区分などを把握せること。」

(1) ウ

「風土、民族の扱い、現代の課題の考察、歴史地図の活用などについては、地理的条件との関連に留意すること。」

(2) ウ (ア)

「客観的かつ公正な資料に基づいて歴史の事実に関する理解を得させないようにすること。」

第3 『日本史A』

1 (目 標)

「近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付け考察させることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。」

3 (内容の取り扱い)

(3) ア

「アからオまでの中から、生徒の実態等に応じ、二つ又は三つを選択して主題を設定し、作業的、体験的な学習を重視して実施すること。」

第4 『日本史B』

1 (目 標)

「我が国の歴史の展開を、世界的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。」

3 (内容の取り扱い)

(2) ウ (ア)

「地域の範囲は、学校所在地を中心とする日常の生活圏、都道府県、それらを包含する地方など、学習指導上の観点に立って適宜設定すること。」

(3)

「近代史の指導に当たっては、客観的かつ公正な資料に基づいて、事実の正確な理解に導くようになるとともに、多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成するようにする。」

第5 『地理A』

1 (目 標)

「現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。」

2 (内 容)

(1) 現代世界の特色と地理的技能

「現代世界の地域性や動向を作業的、体験的な学習を通してとらえさせるとともに、地理的技能を身につけさせる。」

(1) イ 結び付く現代世界

「交通・通信の発達、人や物の国際間の移動などに関する資料の収集、分析などを通して～」

(1) ウ 多様さを増す人間行動と現代世界

「～ボランティア活動に関する資料の収集、分析などを通して世界の人々の多様化する行動を地理的環境と関連付けてとらえさせる。」

(1) エ 身近な地域の国際化の進展

「生活圏、行動圏に見られる世界と結び付く諸事象の地域調査やその結果の地図化などを通して、身近な地域の国際化の進展や日本と世界との結び付きの様子をとらえさせる。」

(2) イ (ア) 諸地域から見た地球的課題

「環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を地球的及び地域的視野から追究

し～」

3 (内容の取扱い)

(1) イ

「地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。」

(2) ア (ア)

「～地球儀や地図の活用、観察や調査、統計、画像、文献などの地理情報の収集、選択、処理、諸資料の地理情報化や地図化などの作業的、体験的な学習を取り入れるとともに、各項目を関連付けて地理的技能が身に付くよう工夫すること。」

(2) ア (イ)

「～略地図の描画については、世界地図の全体や部分が描けるようにすること。」

(2) ア (ウ)

「イについては、年次の異なる主題図や統計などを比較し関連付けてとらえさせるようにする～」

第6 『地理B』

1 (目 標)

「現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。」

2 (内 容)

(2)

「地域の規模に応じて地域性を多面的・多角的に考察し～」

(3) ア 地図化してとらえる現代世界の諸課題

「世界各地に生起している地球的課題に関する諸事情を地図化して追究し、その現状や動向をとらえさせるとともに、地図化することの有用性に気付かせ、それに関する技能を身に付けること。」

(3) イ 地域区分してとらえる現代世界の諸課題

「～その空間的配置や類似性、傾向性をとらえさせるとともに地域区分することの有用性に気付かせそれに関する技能を身に付けさせる。」

3 (内容の取扱い)

(1) イ

「地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、景観写真の読み取りなどの地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。」

第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

1 (2)

「中学校社会科及び公民科との関連並びに地理歴史科に属する科目相互の関連に留意すること。」

2 「各科目の指導に当たっては、情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、作業的、体験的な学習を取り入れるよう配慮するものとする。そのため、地図や年表を読みかつ作成すること～」

高等学校学習指導要領「公民科」(1999年 発表)

第1款 目 標

「広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、民主的平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。」

第2款 各 科 目

第1 『現代社会』

1 (目 標)

「人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。」

2 (内容の取扱い)

(1) エ

「的確な資料に基づいて、社会的事象に対する客観的かつ公正なものの見方や考え方を育成するとともに～統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法などについて指導するよう留意すること。～」

第2 倫 理

1 (目 標)

「人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。」

第3 政治・経済

1 (目 標)

「広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともにそれらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。」

3 (内容の取扱い)

(2) ウ

「各教科の指導に当たっては、情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、作業的、体験的な学習を取り入れるよう配慮するものとする。そのため、各種の統計、年鑑、白書、新聞、読み物その他の資料に親しみ活用すること、観察、見学及び調査・研究したことを発表したり～」

中学校学習指導要領（平成10年12月）解説—社会編—

第2章 目標及び内容

第1節 (教科の目標)

「広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」

第2節 各分野の目標及び内容

(地理的分野)

1 (目 標)

- (1) 「日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土に対する認識を養う。」
- (2) 「日本や世界の地域の諸事情を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色をとらえるための視点や方法を身に付けさせる。」
- (3) 「大小様々な地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し、それらの地域は相互に関係し合っていることや各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること、また、それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる。」
- (4) 「地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。」

b 様々な資料を適切に選択、活用する

「～地理的分野の学習で活用できる資料としては、地図、統計、新聞、写真、紀行文など種々あるが、なかでも重要な役割を果たしているのが地図である。特に、現代のように地域間の交流の盛んな時代においては、社会的事象を位置や距離関係を考慮して地図上でとらえることが効果的であり、大切なこととなっている。また、地域の変容が激しくなっている現代は、新旧の地図を比較し関連付ける学習が、地域の変容の軌跡をとらえ、地域の課題や将来像などについて考える上でも大切な方法になっている。それだけに、読図力、作図力などを地理学習の全般にわたってしっかりと身に付けさせるよう工夫することが必要である。」

d 適切に表現する能力や態度を育てる

「～なお、地理的事象の多くは地図化することが可能であり、それによって地理的事象が意味することなどを明確にとらえることができることから、特に地図に関する表現力の育成に留意して学習指導を工夫することが大切である。」

2 (内 容)

(1) 世界と日本の地域構成

「この大項目は、世界と日本の地域構成の基本的な枠組みを地球儀や地図を活用してとらえ

させ、それに関する基礎的な知識及び球面上の位置関係などをとらえる技能を身に付けさせるとともに、世界と日本の地域構成を踏まえて大まかに世界地図や日本地図を描くことができるようにすることを主なねらいとしている。

(中略) 世界については、大陸と海洋の形状と分布、国際社会の基礎単位となっている国々の名称と位置などを基にして、世界の様子を大きくとらえ、それを世界地図のかたちで大まかに描けるようにすることがその役割を果たすものと考える。

(中略) 我が国を構成する基礎単位の一つとして都道府県があることに着目し、それらを基に大まかな日本地図を描けるようにしたり、例えば都道府県境が記入された日本の白地図を活用するなどして、都道府県の位置と名称を身に付けさせたりする。」

3 (内容の取扱い)

(2) ア

「地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。」

(3) ア②地図の活用に関する技能

- a 「地形図や市街図、道路地図、案内書の地図などに慣れ親しみ、どこをどのように行けばよいのか、見知らぬ地域を地図を頼りにして訪ね歩く技能を身に付けること。」
- b 「地図や地図帳に慣れ親しんで、この地名は日本のどこにあるのか、この人は世界のどの付近を訪ね歩いたのかなど、学習や日常生活の中で出てくる地名に関心をもち、その位置を確かめるようになること。」
- c 「ここには、どのような地理的事象がみられるのか、この地理的事象がなぜこの地域にみられるのか、既存の地図から地理的事象を読み取ったり、地理的事象を地図を通して追究しとらえたりする技能を身に付けること。」
- d 「この調査結果やこの統計は地図に表すことが可能かどうか。地図に表すとすればどう工夫すればよいか、地域の諸事情や情報の地図化の適否を判断し、適切に地図化する技能を身につけること。」
- e 「略地図を描く技能を身に付け、略地図で位置を示したり、略地図を使って日本や世界にみられる諸事象をとらえ、説明したりするようになること。」

(歴史的分野)

1 (目標)

- (1) 「歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解させ、それを通じて我が国の文化と伝統の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。」
- (2) 「国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を養う。」
- (3) 「歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う。」
- (4) 「身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。」

(公民的分野)

(目標)

- (1) 「個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。」
- (2) 「民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深めるとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。」
- (3) 「国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各國が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる。」
- (4) 「現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。」

小学校学習指導要領解説—社会編—（平成11年5月）

第2章 目標及び内容

第1節 (社会科の目標)

「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」

第3章 各学年の目標及び内容

第1節 (第3学年及び第4学年の目標と内容)

1 (目 標)

(3)

「地域における社会的事象を観察、調査し、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てるようにすること。」

「例えば、観察、調査や資料の活用については、観察や調査を中心とした直接的に調べる活動から、具体的な資料を活用して調べる活動へと発展させていくようとする。表現についても、調べたことを絵地図、劇、造形などで表現し発表する活動から、次第にグラフや文章などのような記号化されたものによって表現し発表する活動へと発展させていく必要がある。」

2 (内 容)

(1)

「自分たちの住んでいる身近な地域や市（区、町、村）について、次のことを観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。」

「観察や調査の結果を地図に表す場合には、身近な地域の様子をまず、絵地図に表し、次に、それを平面地図（白地図）に表しながら、学習する範囲を市（区、町、村）に広げていくようとする。白地図への記入に際しては、地図の基礎的な要素である主な地図記号や四方位を理解し活用できるように指導する必要がある。」

「『地域の様子は、場所によって違いがあることを考えるようとする』とは、観察、調査したり、地図（絵地図）にまとめたりしたことをもとにして、身近な地域や市（区、町、村）の様子は、場所によって違いのあることを具体的に考えることができるようになることである。』

(1) ア

「身近な地域や市（区、町、村）の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き交通の様子など」

「『身近な地域や市（区、町、村）の特色ある地形』を調べるとは、例えば、自分たちの住んでいる身近な地域や市（区、町、村）の中で、土地の低いところや高いところ、広々と開けた土地や山々に囲まれた土地、川の流れているところや海辺に面したところなどに着目して、これらの場所を白地図などに書き表すことである。」

「『主な公共施設などの場所と働き』を調べるとは、自分たちや市（区、町、村）の人々が利用する主な公共施設を取り上げ、それらが市（区、町、村）のどこにあるか、それらはどんな働きをしているかを実際に観察したり、調査したりして調べ、その結果を白地図などに書

き表することである。」

「『交通の様子を調べる』とは、主な道路や鉄道がどのように通っているかなどについて調べ、それぞれの位置を白地図に書き表すことである。」

「実際に指導に当たっては、屋上や小高い山など高いところから身近な地域の景観を展望、観察したり、市（区、町、村）の鳥瞰図や立体地図、空中（航空）写真などを活用したりして、身近な地域の絵地図から市（区、町、村）全体の平面図へ無理なく移行するよう配慮する必要がある。」

(2)

「地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。」

(2) ア

「地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。」

「実際に指導に当たっては、見学や調査、作業的な活動などを取り入れて、具体的に調べることができるようにすることが大切である。例えば、農家や工場、商店などの分布を市（区、町、村）内を見学したりして白地図などにまとめる活動が考えられる。～（中略）なお、商店などの分布を調べることが、商店街の働きを学習することにならないよう留意する必要がある。」

(2) イ

「地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり」

「実際に指導に当たっては、地域の農家や工場、商店などを直接見学して働く人の工夫や努力を具体的に調べたり、人や物による他地域とのかかわりを地図などを活用して整理したりして、地域の生産や販売の仕事に携わっている人々の工夫について考えることができるようにする。」

(6)

「県（都、道、府）の様子について、次のことを資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、県（都、道、府）の特色を考えるようにする。」

「『資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ』とは、ここでの学習の仕方を示している。ここでは、調査、見学が困難な内容も多いため、資料を収集し活用しながら調べることが中心になると考えられる。県（都、道、府）の地図や地図帳、収集した各種の資料などを活用し、調べたことを白地図にまとめるなどして、自分たちの住んでいる県（都、道、府）の概要や特色をとらえることができるようにすることが大切である。」

(6) ア

「県（都、道、府）内における自分たちの市（区、町、村）の地理的位置」

「実際に指導にあっては、県（都、道、府）の地図を十分に活用することが大切である。例えば、地図を用いて県（都、道、府）の形を写し取り、それに自分たちの市（区、町、村）を位置づける活動や、地図の中の地名や名称などを用いて自分たちの市（区、町、村）の位置を言い表す活動などが考えられる。」

(6) イ

「県（都、道、府）全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置」

「『交通網の様子や主な都市の位置』を調べるとは、県（都、道、府）内を通る主な道路や鉄道などの交通網、主な港や空港の位置、主な都市の位置を調べ、それらを県（都、道、府）の白地図に整理することである。」

「実際の指導にあっては、県（都、道、府）の地図や立体地図などを活用して、白地図に主な地形や産業、道路や鉄道、都市などを書き表しながら、県（都、道、府）全体の特徴をとらえ、自分たちの住んでいる県（都、道、府）の地形や産業などの特色を考えることができるようにすることが大切である。」

(6) 工

人々の生活や産業と国内の他地域や外国とのかかわり

「実際の指導に当たっては、交通網や産業、特色ある地域の人々の生活などの学習と関連付けて取り上げたり、結び付きのある外国の位置や国旗を世界地図や地図帳などで確認したりすることが大切である。」

3 (内容の取扱い)

(1) イ

イについては、国内の他地域だけではなく、外国ともかかわりあることに気付くよう配慮すること。その際、児童に無理のない取扱いをすること。

「実際の指導に当たっては、児童の発達段階を考慮して、国内の他地域については、都道府県の名称と位置を日本地図で調べるようにし、世界の中でもかかわりのある国や地域については、それらの名称と位置を世界地図などで確認するにとどめるようにする。細かな地名に深入りしたり、外国の様子を扱ったりするなど、高度な学習にならないように留意する必要がある。」

(4) イ

工については、我が国や外国には国旗があることを理解させ、それを尊重する態度を育てるよう配慮すること。

「その際、取り上げた外国の位置や国旗を地図帳などで確認するなど、具体的な活動を通して指導するように配慮する必要がある。」

第2節 (第5学年の目標と内容)

1 (目 標)

(3)

社会的事象を具体的に調査し、地図、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、社会的事象の意味について考える力を育てようとする。

「『社会的事象を具体的に調査し、地図、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現する』力を育てるとは、我が国の産業や国土に関する社会的事象を具体的に調査したり、地図や統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用して調べたり、調べたことを目的に応じた方法で表現したりする力を育てるようにすることである。」

「この目標を実現するためには、第5学年の内容全体の指導を通して、我が国の産業や国土に関する社会的事象を具体的に調査したり、地図や統計などの基礎的資料を効果的に活用して調べたり、さらに、調べたことを目的に応じた方法で表現したりする。また、調べたことや表現したことに基づいて、社会的事象の意味を考えることができるようにすることが大切である。」

2 (内 容)

(1)

我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深

いかかわりをもって営まれていることを考へるようにする。

『調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ』とは、ここでの学習の仕方を示している。ここでは、例えば、学校給食の献立を手掛かりにしてその材料やその産地を調べることや、我が国の主な農産物や畜産物とその分布、土地利用、主な漁港や漁場など我が国の食料生産の概要について地図帳や統計その他の各種資料を活用して調べること、さらに、農業や水産業の盛んな地域を事例に取り上げ、生産や輸送などの面で様々な工夫や努力をしていることを地図や資料などを活用して具体的に調べる活動が考えられる。」

(1) イ

我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色など

「実際の指導に当たっては、地図帳や学校図書館の図書、資料などに掲載されている各種の統計資料や分布図などの活用を図り、我が国の農業や水産業の様子を概観し、そこに見られる特色を大まかにとらえるようにすることが大切である。その際、例えば、我が国 土地利用図と主な農産物の分布図などの資料を提示して、その関連を考えるなど、我が国の農業生産の特色を具体的にとらえることができるよう工夫することが考えられる。」

(2)

我が国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考へるようにする。

『調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ』とは、ここでの学習の仕方を示している。ここでは、例えば、身の回りの工業製品について調査し、工業生産と国民生活とのかかわりを身近にとらえるようにする。また、分布図や統計資料、映像資料などを活用して我が国の工業生産の現状や特色、工業生産に従事している人々の工夫や努力を具体的に調べることや世界地図や地球儀を用いて原材料の輸入先や製品の輸出先の国や地域の位置を確認することなどが考えられる。」

(2) イ

我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など

『我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など』を調べるとは、我が国で生産されている工業製品の種類やそれらを生産する工場が集まっている主な工業地域の分布などについて、分布図や統計資料などを活用して調べることである。実際の指導に当たっては、例えば、我が国、我が国全体で生産されている工業製品の主な種類別の生産額などを調べたり、主な工業地域の分布や立地などを調べたりして、我が国全体の工業生産の現状や特色をとらえられるようにする。』

(4)

我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図その他の資料を活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもつてゐることを考へるようにする。

『地図その他の資料を活用して調べ』とは、ここでの学習の仕方を示している。ここでは、地図帳などに掲載されている地図や各種の統計資料、写真、地球儀などを活用して学習を進めるようにする。例えば、地図帳を活用する場合、国土の位置や範囲、近隣諸国の国名と位置、国旗などを調べたり、また、国土の地形や気候の概要を地図や統計資料などで調べたりすることが考えられる。』

(4) ア

国土の位置、地形や気候の概要、気候条件から見て特色ある地域の人々の生活

『国土の位置』を調べるとは、我が国の国土の構成や周囲の様子を取り上げながら、国土が

どのように位置しているかを表すことである。そのためには、国土を構成する北海道、本州、四国、九州や沖縄、北方領土などの主な島の位置、日本の領土の範囲、日本の周りの海や近隣諸国の国名と位置などについて、地図帳などを活用して具体的に調べ、地図に表すなどの活動が考えられる。」

(4) ウ

国土の保全や水資源の涵養のための森林資源の働き

「実際の指導の当たっては、国土の土地利用全体に占める森林面積の割合や森林分布の現状、森林資源の働きなどを地図や統計などの資料を活用して調べ、森林資源と人々の生活や産業との関連について具体的に考えることができるようとする。」

3 (内容の取扱い)

(6)

内容の(4)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの「国土の位置」の指導については、我が国の領土と近隣の諸国を取り上げるものとすること。その際、我が国や諸外国には、国旗があることを理解するとともに、それを尊重する態度を育てるよう配慮すること。

「国土の位置の指導に当たっては、地図帳や地球儀などを活用しながら、我が国の領土や隣接する諸国の国名と位置を確認するようとする。」

第3節 (第6学年の目標と内容)

1 (目 標)

(3)

社会的事象を具体的に調査し、地図や年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、社会的事象の意味をより広い視野から考える力を育てようとする。

「『社会的事象を具体的に調査し、地図や年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現する』力を育てるとは、我が国の歴史と政治及び国際理解に関する社会的事象を具体的に調査したり、地図や年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用して調べたり、調べたことを目的に応じた方法で表現したりする力を育てるようすることである。」

「この目標を実現するためには、第6学年の内容全体の指導を通して、我が国の歴史と政治及び国際理解に関する社会的事象を具体的に調査したり、地図や年表などの基礎的資料を効果的に活用して調べたり、さらに、調べたことを目的に応じた方法で表現したりする。また、調べたことや表現したことに基づいて、社会的事象の意味をより広い視野から考えることができるようにすることが大切である。」

2 (内容)

(1) オ

江戸幕府の始まり、大行列、鎖国、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、身分制度が確立し武士による政治が安定したことや町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かること。

「～（中略）伊能忠敬が全国を測量して精密な日本地図を作ったことなどを取り上げることもできる。」

(3)

世界の中の日本の役割について、次のことを調査したり地図や資料などを活用したりして調

べ、外国の人々と共に生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えるようとする。

「ここでは、具体的な事例を取り上げ、調査や資料の活用を中心とした学習が具体的に展開できるようとする。また、地図の活用については、地球儀や世界地図を用いて、我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の国名や位置を確認したり、日本から見た方位などを調べたりするなどして世界地図を活用する能力を育てるとともに、世界の国々や地域に関心をもつようとする。」

第4章 指導計画の作成と内容の取扱い

「～第4学年から給与される教科用図書の地図（地図帳）は、各学年の目標の（3）に示されている地図を効果的に活用することにもかかわって、社会的事象を適切に見たり考えたりする能力を育てるために必要な教材である。地図帳は、地名の位置を確認することができるだけでなく、社会的事象の様子や関係、自然環境とのかかわりを調べることもできる。こうした活用の仕方を身に付けるとともに、地図帳を日常的に活用し、地図帳への親しみをもたせ、問題解決のための教材として必要に応じて活用する知識や能力を育てるようにすることが大切である。地図帳は、第4学年から第6学年までの各学年で使用されるものであるが、特に使いはじめにおいては、地図帳の内容構成を理解できるようにすることが大切である。また、社会科の学習を進めるうえで、大切な教科用図書であることや、社会科だけでなく他の教科等の学習や家庭などにおいても活用することが大切であることを指導するようにする。このように地図帳については、日常の指導の中で、折にふれて、地図の見方や地図帳の索引の引き方、統計資料などの活用の仕方などについて指導し、地図帳を自由に活用できる知識や能力を身に付けるようにすることが大切である。」

「学習指導要領文面一部使用の許可は文部科学省より得ております」

	氏名	所属	職名	教科
会長	荒井 昇	岐阜県図書館	館長	
副会長	平野 芳彦	岐阜県図書館	室長	
特別顧問	金窪 敏知	日本地図センター	顧問	
	小林 浩二	岐阜大学教育学部	教授	
	海津 正倫	名古屋大学大学院環境学研究科	教授	
委員	奥村 雅人	可児市立桜ヶ丘小学校	教諭	小学校社会科
	後藤 靖弘	瑞穂市立南小学校	教諭	
	舟橋 弘恭	各務原市立中央中学校	教諭	中学校社会科
	浅井 孝彦	岐阜市立東長良中学校	教諭	
	矢吹 敬	岐阜市立長森南中学校	教諭	
	渡邊美智春	垂井町立不破中学校	教諭	
	西野 達夫	岐阜県立大垣東高等学校	教諭	高等学校公民科・地理歴史科
	堀 英男	岐阜県立岐阜高等学校	教諭	
	村上 宏俊	岐阜県立関高等学校	教諭	
	吉田 益穂	岐阜県東濃高等学校	教諭	
	北倉 聰	岐阜市立長森南小学校	教諭	小学校理科
	原 香	岐阜市立華陽小学校	教諭	
	後藤 淳	土岐市立駄知小学校	教諭	高等学校国語科
	今井 雅巳	岐阜県立岐南工業高等学校	教諭	
事務局	杉山 政広	岐阜県立不破高等学校	教諭	高等学校理科
	大野 雅俊	岐阜県立華陽フロンティア高等学校	教諭	
	大石 真一	岐阜県立岐阜農林高等学校	教諭	高等学校農業科
	種田有紀子	岐阜県立大垣桜高等学校	教諭	高等学校家庭科
	西村三紀郎	岐阜県図書館	世界分布図センター室企画管理 チーフ	
	滝村 一彦	岐阜県図書館	岐阜県情報工房 担当	
	水谷 透	岐阜県図書館	岐阜県情報工房 担当	
	佐藤 秀樹	岐阜県図書館	世界分布図センター室企画管理 担当	
	河合 香	岐阜県図書館	世界分布図センター室企画管理 担当	

	氏名	所属	職名	教科
会長	荒井 昇	岐阜県図書館	館長	
副会長	成瀬 徳幸	岐阜県図書館	室長	
特別顧問	金窪 敏知	日本地図センター	顧問	
	小林 浩二	岐阜大学教育学部	教授	
	海津 正倫	名古屋大学大学院環境学研究科	教授	
委員	坂口 亨	岐阜大学教育学部附属小学校	教諭	小学校社会科
	後藤 靖弘	瑞穂市立南小学校	教諭	
	兼松 直人	各務原市立那加第二小学校	教諭	中学校社会科
	浅井 孝彦	岐阜市立東長良中学校	教諭	
	矢吹 敬	岐阜市立長森南中学校	教諭	
	渡邊美智春	垂井町立不破中学校	教諭	
	西野 達夫	岐阜県立大垣東高等学校	教諭	高等学校公民科・地理歴史科
	堀 英男	岐阜県立岐阜高等学校	教諭	
	村上 宏俊	岐阜県立関高等学校	教諭	
	吉田 益穂	岐阜県東濃高等学校	教諭	
	北倉 聰	岐阜市立長森南小学校	教諭	小学校理科
	原 香	岐阜市立華陽小学校	教諭	
	太田 貴敏	笠松町立下羽栗小学校	教諭	
	今井 雅巳	岐阜県立岐南工業高等学校	教諭	高等学校国語科
事務局	杉山 政広	岐阜県立池田高等学校	教諭	高等学校理科
	大野 雅俊	岐阜県立岐阜北高等学校	教諭	
	大石 真一	岐阜県立岐阜農林高等学校	教諭	高等学校農業科
	種田有紀子	岐阜県立大垣桜高等学校	教諭	高等学校家庭科
	西村三紀郎	岐阜県図書館	世界分布図センター室企画管理 チーフ	
	滝村 一彦	岐阜県図書館	岐阜県情報工房 担当	
	佐藤 秀樹	岐阜県図書館	世界分布図センター室企画管理 担当	
	平井 学	岐阜県図書館	岐阜県情報工房 担当	
	奥村 雅人	岐阜県図書館	世界分布図センター室企画管理 担当	

	氏名	所属	職名	教科
会長	安藤 純	岐阜県図書館	館長	
副会長	成瀬 徳幸	岐阜県図書館	室長	
特別顧問	金窪 敏知	日本地図センター	顧問	
	小林 浩二	岐阜大学教育学部	教授	
	海津 正倫	名古屋大学大学院環境学研究科	教授	
委員	坂口 亨	岐阜大学教育学部附属小学校	教諭	小学校社会科
	後藤 靖弘	岐阜市立長良小学校	教諭	
	浅井 孝彦	岐阜市立東長良中学校	教諭	中学校社会科
	矢吹 敬	岐阜市立長森南中学校	教諭	
	渡邊美智春	垂井町立不破中学校	教諭	
	西野 達夫	岐阜県立大垣東高等学校	教諭	高等学校公民科・地理歴史科
	堀 英男	岐阜県立岐阜高等学校	教諭	
	村上 宏俊	岐阜県立岐阜北高等学校	教諭	
	北倉 聰	岐阜市立長森南小学校	教諭	小学校理科
	原 香	岐阜市立華陽小学校	教諭	
	大野 雅俊	岐阜県立岐阜北高等学校	教諭	高等学校生物科
	大石 真一	岐阜県立大垣養老高等学校	教諭	高等学校農業科
	種田有紀子	岐阜県立大垣桜高等学校	教諭	高等学校家庭科
事務局	滝村 一彦	岐阜県図書館	世界分布図センター室企画管理 チーフ	
	佐藤 秀樹	岐阜県図書館	世界分布図センター室企画管理 担当	
	川村 謙二	岐阜県図書館	世界分布図センター室企画管理 担当	
	奥村 雅人	岐阜県図書館	世界分布図センター室企画管理 担当	